

## 平成 17 年度第 3 回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議議事概要

1. 日時 平成 17 年 10 月 28 日 (金) 11:30 ~ 13:00

2. 場所 国立情報学研究所 22 階会議室

### 3. 議事概要

#### (1) 委員の交代について

大阪大学サイバーメディアセンター長の交代に伴う、学術情報ネットワーク運営・連携本部、ネットワーク作業部会及び認証作業部会の委員交代について承認された。

- ・運営・連携本部： 下條真司センター長、中野博隆教授（大阪大学）
- ・ネットワーク作業部会： 中野博隆教授（下條真司委員の後任）  
（幹事：首根秀昭教授（下條真司委員（幹事）の後任））
- ・認証作業部会： 馬場健一助教授（下條真司委員の後任）

#### (2) 全国共同電子認証基盤構築事業の平成 18 年度概算要求について

坂内本部長から、全国共同電子認証基盤構築事業の平成 18 年度概算要求の結果についての次の報告があった。

- ・新規項目として「全国共同電子認証基盤構築事業」が認められた。
- ・7 大学情報基盤センターと NII の 8 機関で足並みをそろえて要求を行ったが、大学間連携をクローズアップさせるため、形式として NII が窓口となることになった。

#### (3) SINET のアジア地域における学術ネットワークの構築について

坂内本部長から、次の報告があった。

- ・ DANTE が EU の支援の基に進める TEIN2 プロジェクトに対する日本として対応方針を決めるため、APAN の協力の下に日本の関連組織である NICT 及び MAFFIN との調整を図ってきた。その結果、NII がタイ回線を廃止し、香港回線とシンガポール回線を新設することで、日本、香港、シンガポールを通信拠点とする構成となった。
- ・ NII のタイ回線の廃止にあたり、その利用者について NICT が新設するタイ回線の利用が可能となるよう NICT と連携し調整を行っている。
- ・ 米国 TransPAC がインドとの通信を確保するための回線の準備を行っている。シンガポールとインド間の回線を新規に敷設し、NII のシンガポール回線を相乗りすることでインドまでの通信を確保することの調整が行われている。これによって、日本とインドの学術ネットワークとの協調も推進されることが期待される。
- ・ これらによって、日本としてアジア地域の学術ネットワークへの貢献、連携が明確になり、協調型ネットワークとして進められることとなった。
- ・ さらに、日本 - シンガポール及び香港の回線の運用主体は NII であり、日本としての主体性も確保している。

#### (4) 学術コンテンツ運営・連携本部の設置について

坂内本部長から、CSI の一端を担う学術コンテンツの形成と提供に関する検討を行う学術コンテンツ運営・連携本部を 10 月に設置し、学術コミュニティ全体として大学等の成果物である学術コンテンツの蓄積、発進力強化を目指すことが報告された。

(5) 平成 17 年度整備計画の進捗状況について

坂内本部長から、資料 6 に基づき、次の平成 17 年度整備計画の進捗状況について、報告があった。

- ・ SINET ノード 1Gbps
- ・ スーパーSINET ノードの新設等
- ・ 広域 LAN 接続サービス及び地域 IP 網(B フレッツ)接続サービス
- ・ アジア回線の調達結果
- ・ 平成 18 年度回線の調達結果

(6) ネットワーク作業部会の活動状況について

安達ネットワーク作業部会主査から、資料 7 に基づき、次の報告があった。

- ・ ネットワーク作業部会のミッションとして、今年度のネットワーク整備と次年度以降の次世代ネットワークの仕様策定がある。前者は本運営・連携本部の方針に沿って進行中であり、後者については利用者の要望やニーズ等を聴取しながら、仕様を策定していく予定である。
- ・ なお、仕様策定については、NII のネットワークグループが中心にやっているが、ネットワーク作業部会のメンバーの方にも積極的な関与をお願いしたい。また、次のような発言があった。
- ・ インフラの整備については、幹線の整備だけでなく大学内のインフラの整備も重要なため、情報系の部署だけでなく、施設系等、他の部署とも連携する必要がある。これは、文科省内でも同様に情報課と施設課等が連携できるような体制を作りたい。
- ・ 次世代ネットワークの検討段階において、国研レベルとのチャンネルは設けられているか、との質問があり、スーパーSINET 推進協議会の研究部会等との調整を今後図っていく、との説明があった。

(7) 認証作業部会の活動状況について

岡部認証作業部会主査から、資料 8 に基づき、次の報告があった。

- ・ 認証作業部会の活動を広く世の中に普及させるために広報活動を行っている。
- ・ 7 大学以外の大学等で活動に関する詳細を求めるニーズがあるが、現時点で見せられるものがないため、アウトプットを早くすることを進めていく方針である。
- ・ Internet2 及び AARNet 等の海外の関係者との連携活動も進めている。

続いて、松岡委員から、東京工業大学が先行導入している認証・認可システム調達の事例報告があった。また、板野委員から、筑波大学も認証システムの導入を進めている旨の報告があった。

(8) NII 開発・事業部会開発推進室認証基盤グループの設置について

坂内本部長から、資料 9 に基づき、NII の開発推進室に認証基盤グループを設置し、電子認証基盤構築に向けた体制の強化を図った旨の報告があった。

(9) CSI 構築推進委託事業状況について

坂内本部長から、資料 10-1、資料 10-2 に基づき、最先端学術情報基盤を推進してい

くための整備事業の一環として、各大学及びスーパーSINET 推進協議会の各研究部会と連携し、コンテンツ系も含めて一緒にミッションを共有していく形で業務委託をしていることの説明があった。

- 以上 -